

福井市都市交通戦略

第2回 協議会資料



福 井 市

H19.10.5

今回のテーマ

第1回協議会のまとめ

都市交通の現状と課題

1.福井市における都市交通の現状

2.福井市における都市交通の課題

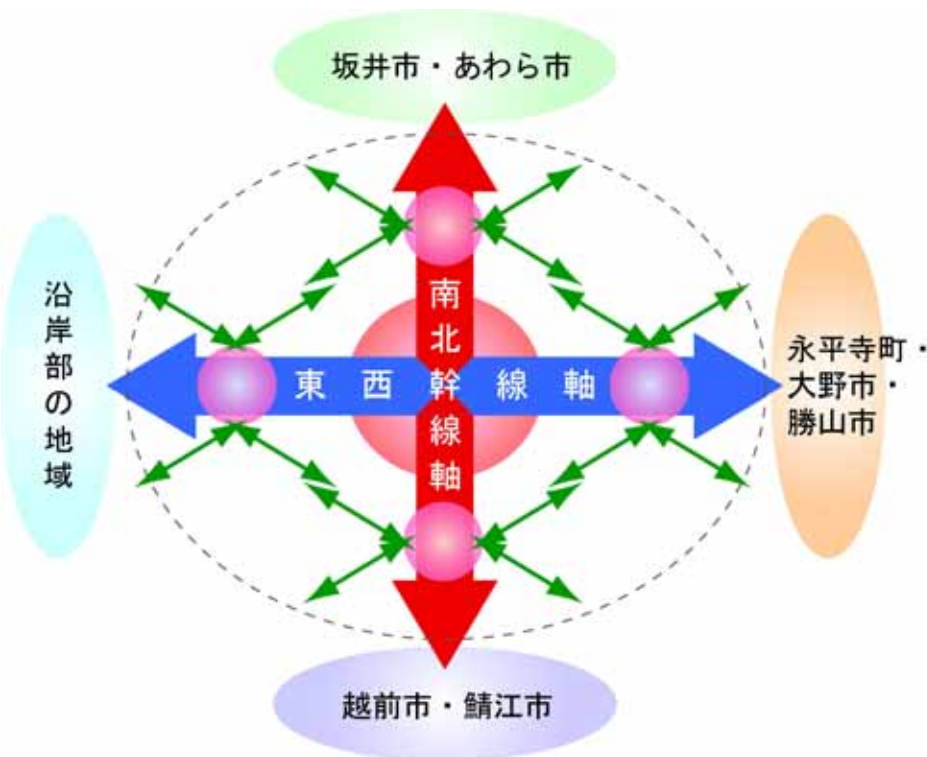
公共交通の目標像

各施策パッケージの検討状況

第1回協議会のまとめ

高感度コンパクトシティ実現のための 都市交通体系の構築

- ・コンパクトな市街地形成を誘導する公共交通体系
- ・誰にとっても利便性の高い公共交通体系
- ・幹線交通軸の維持・整備



南北幹線軸

えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化など、鉄軌道を中心に位置づけます。

東西幹線軸

鉄軌道および西部方面の幹線バスを中心に位置づけます。

公共交通結節強化

フィーダーシステムにより、幹線軸と地域を結びつけます。

施策パッケージ

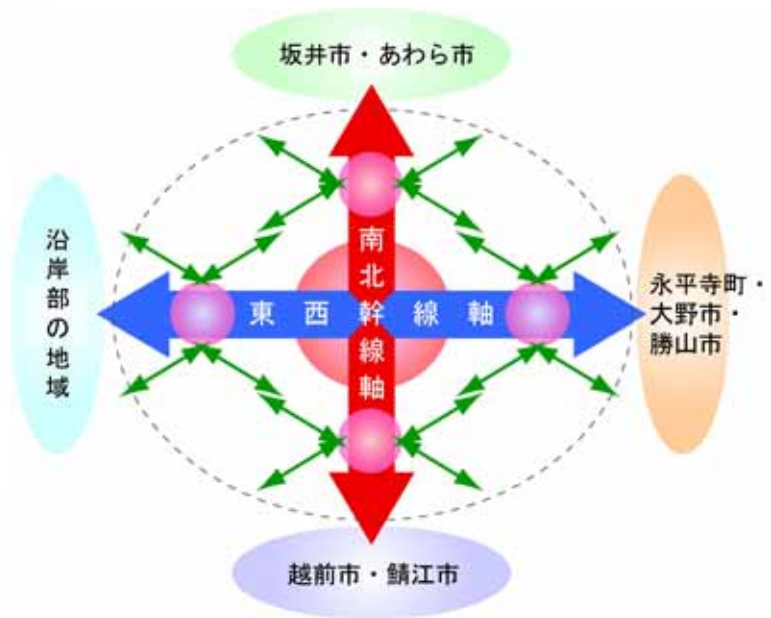
1. 南北幹線軸としての
LRTの整備

2. 東西幹線軸となる
幹線バス路線の整備

3. 交通結節の強化

4. 電車・バスのICT化

5. モビリティ・マネジメントの推進



高感度コンパクトシティを実現するための
都市交通体系の構築

主な意見

対応(予定を含む)

まちづくり

- ・高感度コンパクトシティのイメージがわかりにくい
- ・まちづくりの方向性と交通の方向性を一致させるべき
- ・今回の戦略は、交通体系そのものを望ましい都市構造、生活像を実現するためのインフラとして戦略的につくるべき
- ・まちづくりと交通を切り離して考えることはできない
- ・都市構造を誘導していくための条件として、既存の公共交通のストックを使うという考え方が必要

高感度コンパクトシティの考え方を反映した都市像を設定(地域別にも検討)

交通政策と土地利用政策を連動させた施策パッケージを提案する

全国有数の都市基盤、鉄道やバスの既存ストックの有効活用を明示

公共交通

- ・公共交通の強化に向けターゲットを絞った投資が必要
- ・運賃政策なども含めて、公共交通の利便性を体験してもらう取り組みが必要
- ・公共交通の潜在需要を把握し、取り組むことも必要

地域別施策パッケージを提案

社会実験やアンケートなどのモビリティマネジメントを推進する

主な意見

対応(予定を含む)

福井駅

- ・新幹線の整備により、福井駅からの二次交通としての公共交通の重要性が高くなることを考慮すべき
- ・交通結節点を福井駅に集約させることが市民には納得しやすい

LRT、バスなどの総合的な結節点となる施策パッケージを提案する

その他

- ・市民の理解を得られるような目標をつくることが重要
- ・市民のニーズにあった計画とするべき
- ・居住者だけでなく、観光、出張など外来者に対する交通体系という視点も必要
- ・雪に強い交通体系という視点も必要
- ・電車・バス兼用レーンについては課題がある

分かりやすい成果指標を設定し、市民の理解を得ていく
パブリックコメントによる意見反映を予定

外来者や雪への対応を施策パッケージに盛り込む

交通流シミュレータを活用し、ワーキングで検討する

都市交通の現状と課題

1. 福井市における都市交通の現状

徒歩

充実した歩行者空間

歩道の設置率は富山市、金沢市に比べて高い
交通バリアフリー基本構想を策定し、歩行空間のバリアフリー化を進めている
中心市街地では賑わいの道づくり事業を実施

今後とも日常生活圏におけるバリアフリー化、中心市街地の歩行者空間の充実を図る必要がある

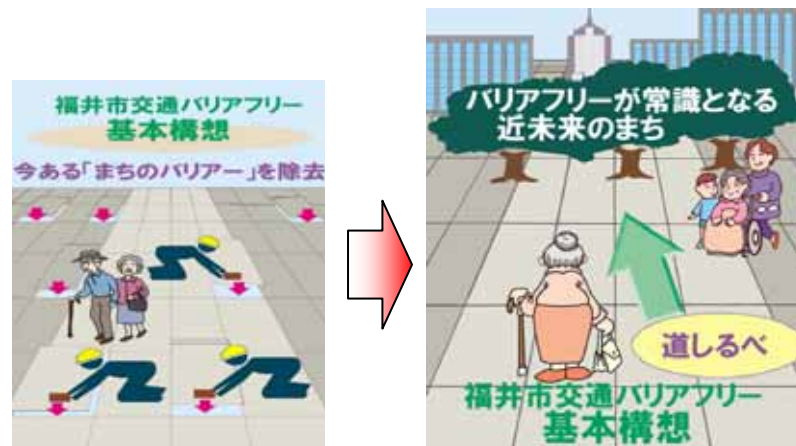


賑わいの道づくり事業（アップルロード南側）

歩道の整備状況

	福井市	富山市	金沢市
3m以上の歩道の設置比率	71% (10位)	40% (29位)	39% (39位)

()は県庁所在都市での順位 (平成14年の実績)



「バリアフリーが常識のまち」へ

1. 福井市における都市交通の現状

自転車

進む駐輪環境の整備

自転車利用環境整備計画を策定
(H19.6)

中心部では約2,700台分の駐輪スペースを確保し、自転車放置禁止区域を設定

鉄道駅ではサイクルアンドライド駐輪場やレンタサイクルを提供している

自転車利用者の通行・駐輪マナーの向上
走行環境の改善、駐輪環境の充実(自転車の通行が可能な歩道の整備、駐輪場の整備)



放置自転車(中央1丁目)



郊外駅での駐輪場(森田駅)



中心部の駐輪場、自転車放置禁止区域



JR福井駅駐輪場(2,000台)

● 駐輪場
● 禁止区域

JR福井駅東口仮設駐輪場(300台)



1. 福井市における都市交通の現状

自動車交通

車に便利な道路網

土地区画整理事業による道路の整備が進んでおり、整備水準は高い

道路網の整備に伴い、自動車を持っていない人にとっては不便な交通体系

都心道路網の整備状況

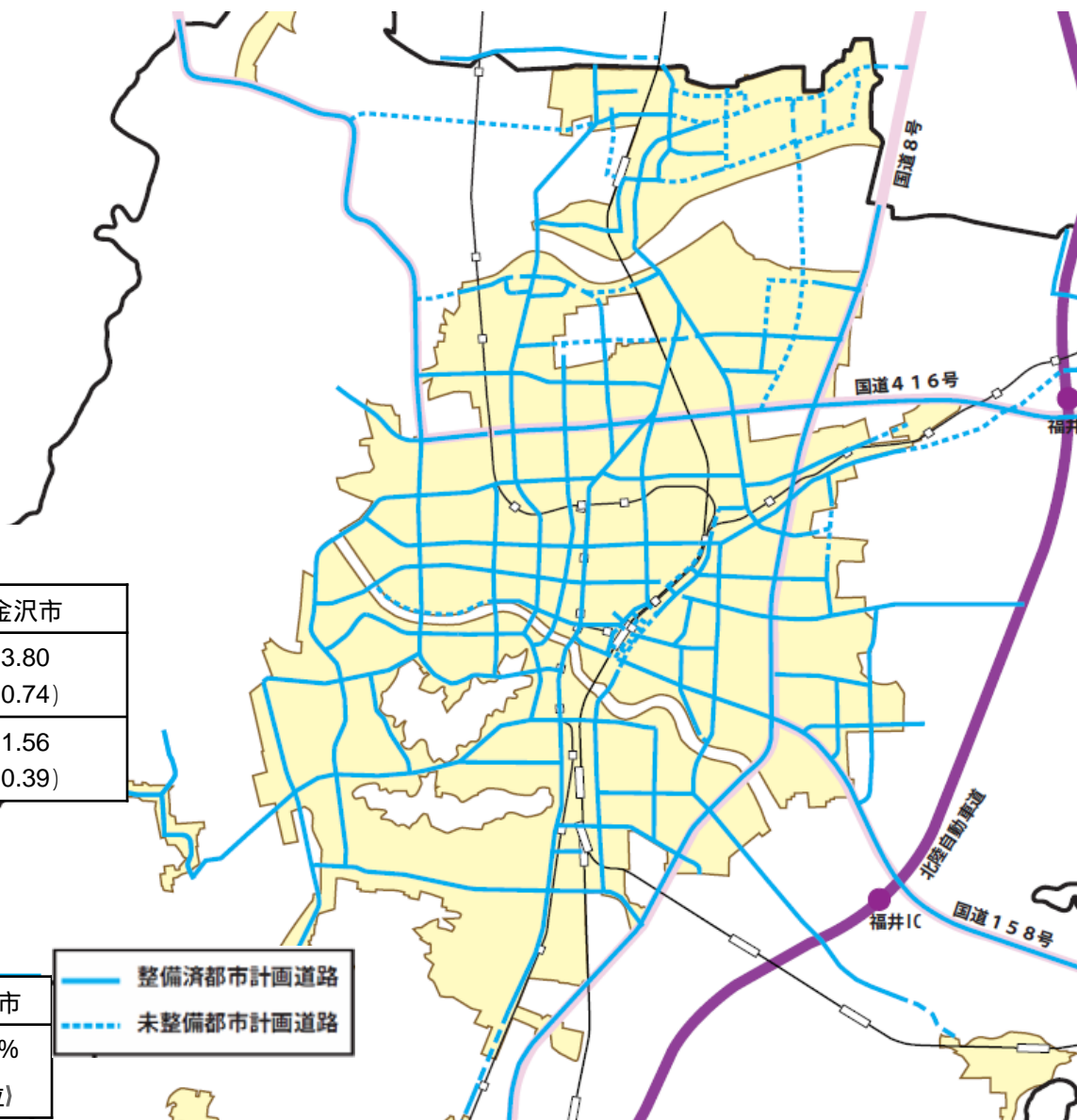
	福井市	富山市	金沢市
整備済道路密度	5.16 (1.00)	5.49 (1.06)	3.80 (0.74)
多車線道路密度	4.04 (1.00)	4.22 (1.04)	1.56 (0.39)

単位: km/km²、 ()は福井市を1とした場合の指数
多車線は幅員20m以上を対象

土地区画整理事業の進捗状況

	福井市	富山市	金沢市
市街化区域面積に対する 施行済+施行中面積	78.4% (1位)	36.9% (8位)	46.5% (5位)

()は県庁所在都市での順位



— 整備済都市計画道路
- - - 未整備都市計画道路

都市計画道路の整備状況

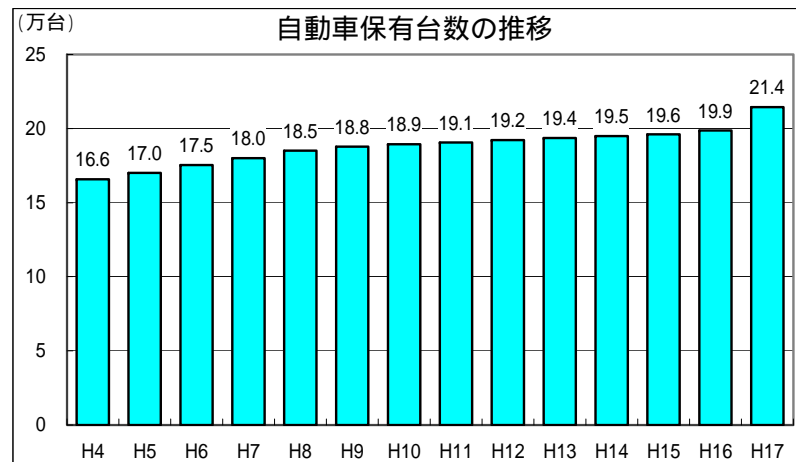
1. 福井市における都市交通の現状

自動車交通

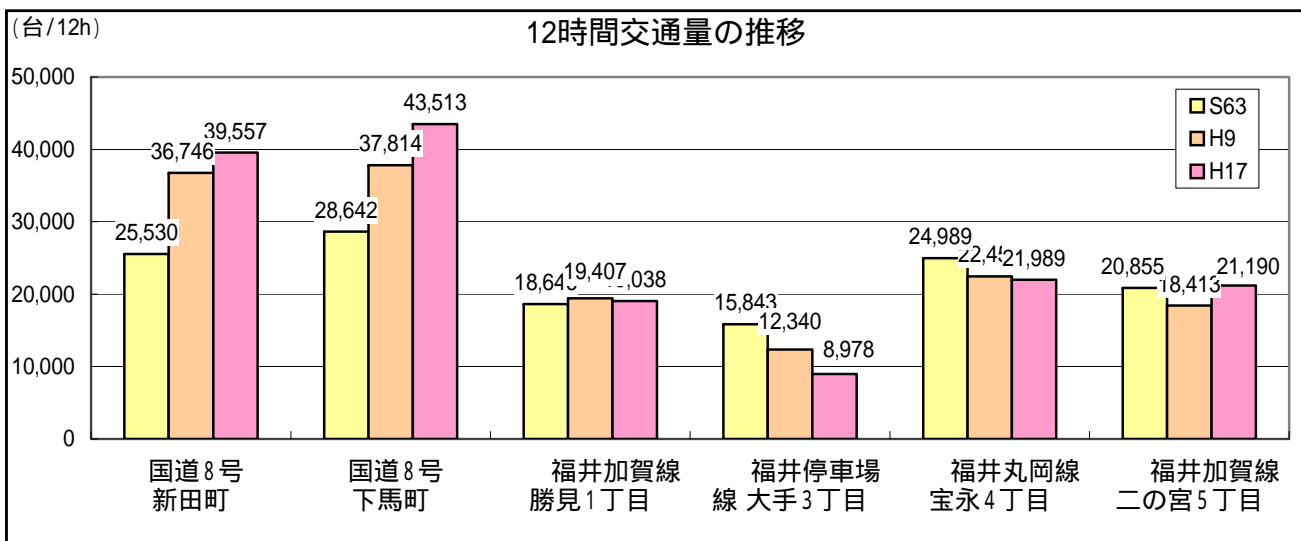
クルマ社会の進行

自動車保有台数は増加
交通量は郊外の幹線道路で増加

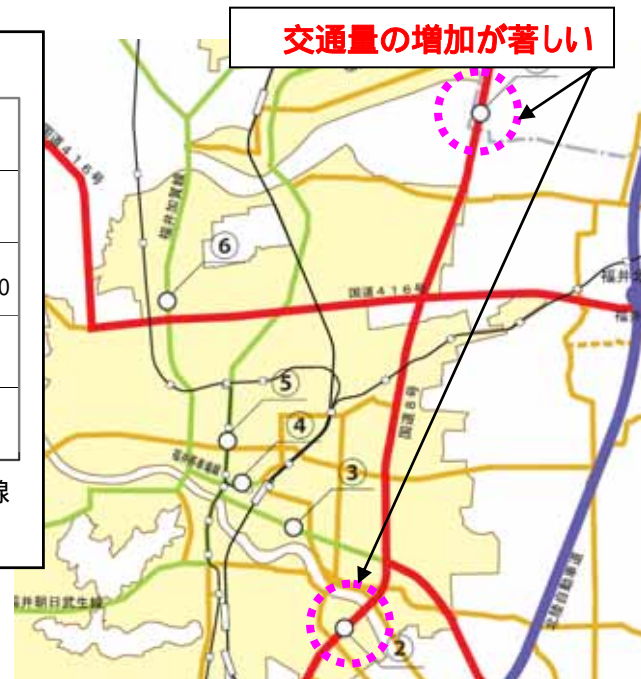
自動車への過度な依存により、
環境負荷が増大し、交通事故も増加



福井市の自動車保有台数の推移(福井市統計書)



交通量の推移(道路交通センサス)



1. 福井市における都市交通の現状

自動車交通

充実した駐車場

中心市街地では、駐車場の整備が進み、駐車場容量は充足している

駐車場の空き情報が分からないため、ストックが有効に活かされていない

凡 例	
● (大)	駐車場 300台～
● (中)	駐車場 100台～299台
● (小)	駐車場 1台～ 99台
--- (赤)	中心市街地

※駐車場：届出駐車場



中心市街地での駐車場の整備状況

資料: 中心市街地活性化基本計画

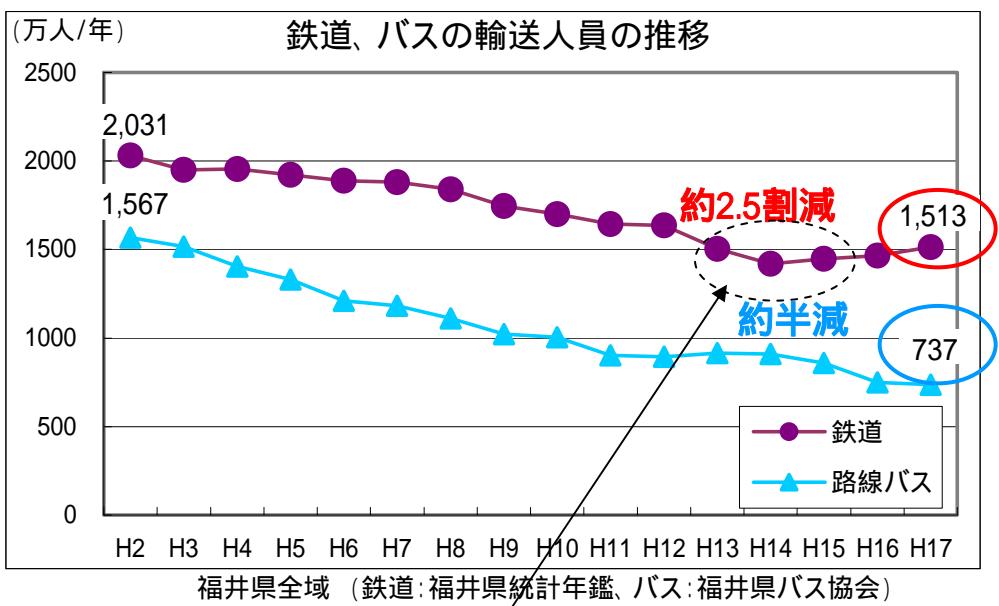
1. 福井市における都市交通の現状

公共交通

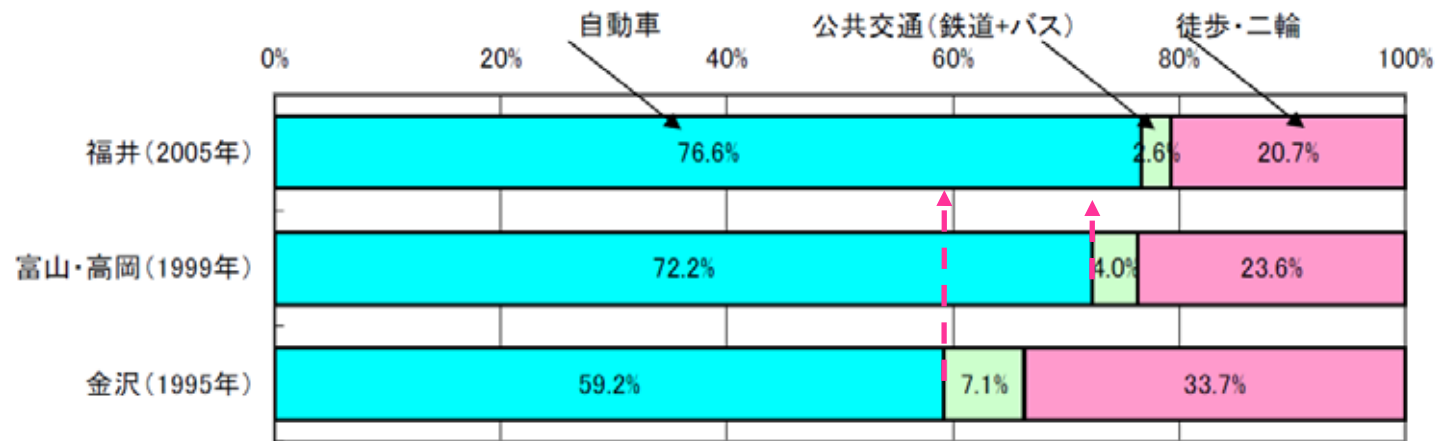
不便になる公共交通

鉄道、バスの利用者は、減少傾向にあるが、えちぜん鉄道の運行開始により、輸送人員が伸びている
他都市圏に比べて公共交通手段の割合が低い

公共交通の利用者減少が著しく、サービスの低下の悪循環が進んでいる



H13.6 京福電鉄運行停止
H15.7~10 えちぜん鉄道運行開始

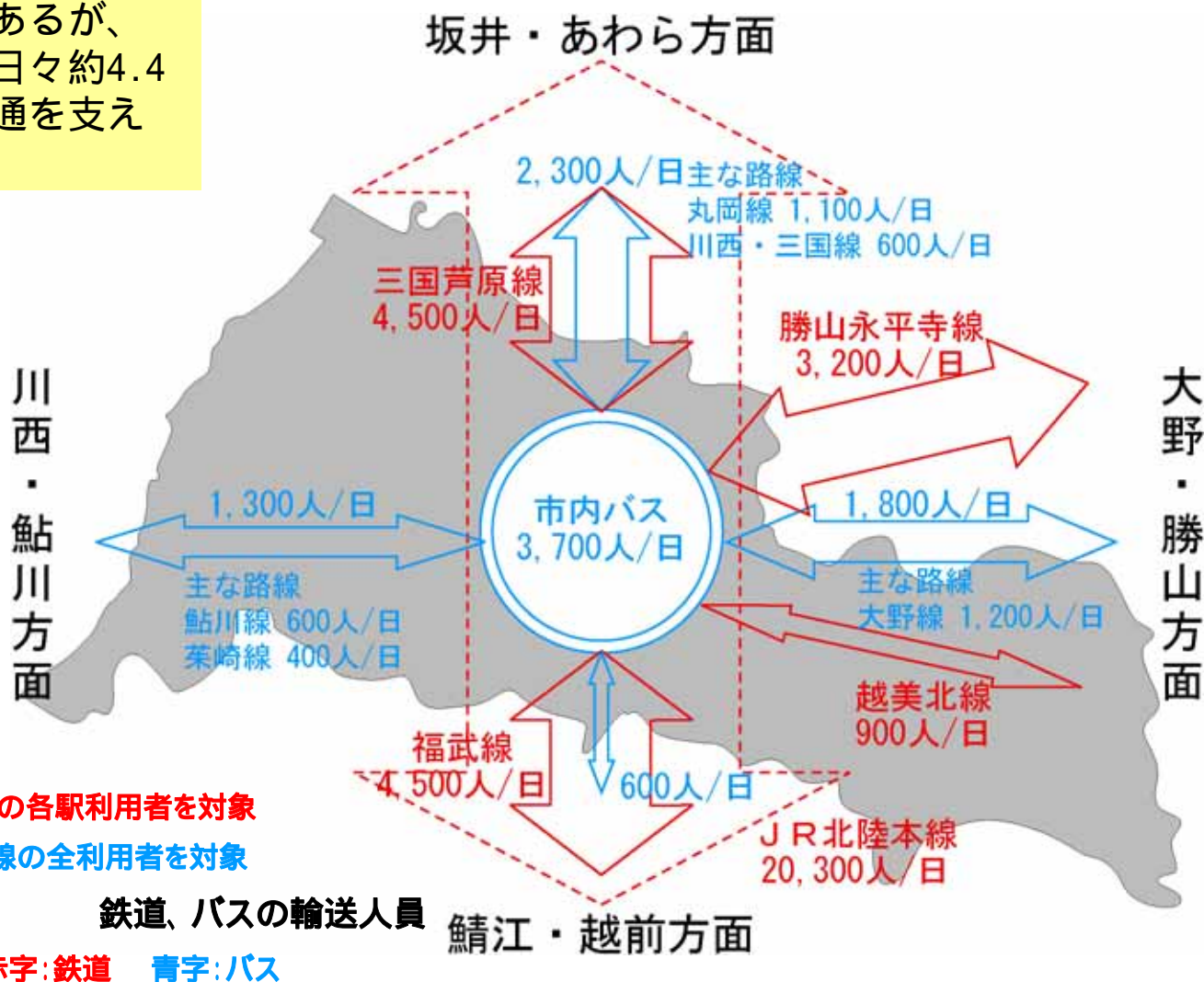


代表交通手段の割合 (各都市圏パーソントリップ調査より)

強い南北公共交通軸

経年的には減少傾向にあるが、南北軸を中心として、日々約4.4万人の足として生活交通を支えている

輸送人員（乗車人員）
鉄道：約34,000人/日
バス：約10,000人/日
（鉄道は平成17年度、バスは18年度の1日平均）



JR北陸本線はあわら市～越前市の各駅利用者を対象

バスは福井市関連の京福バス路線の全利用者を対象

鉄道、バスの輸送人員

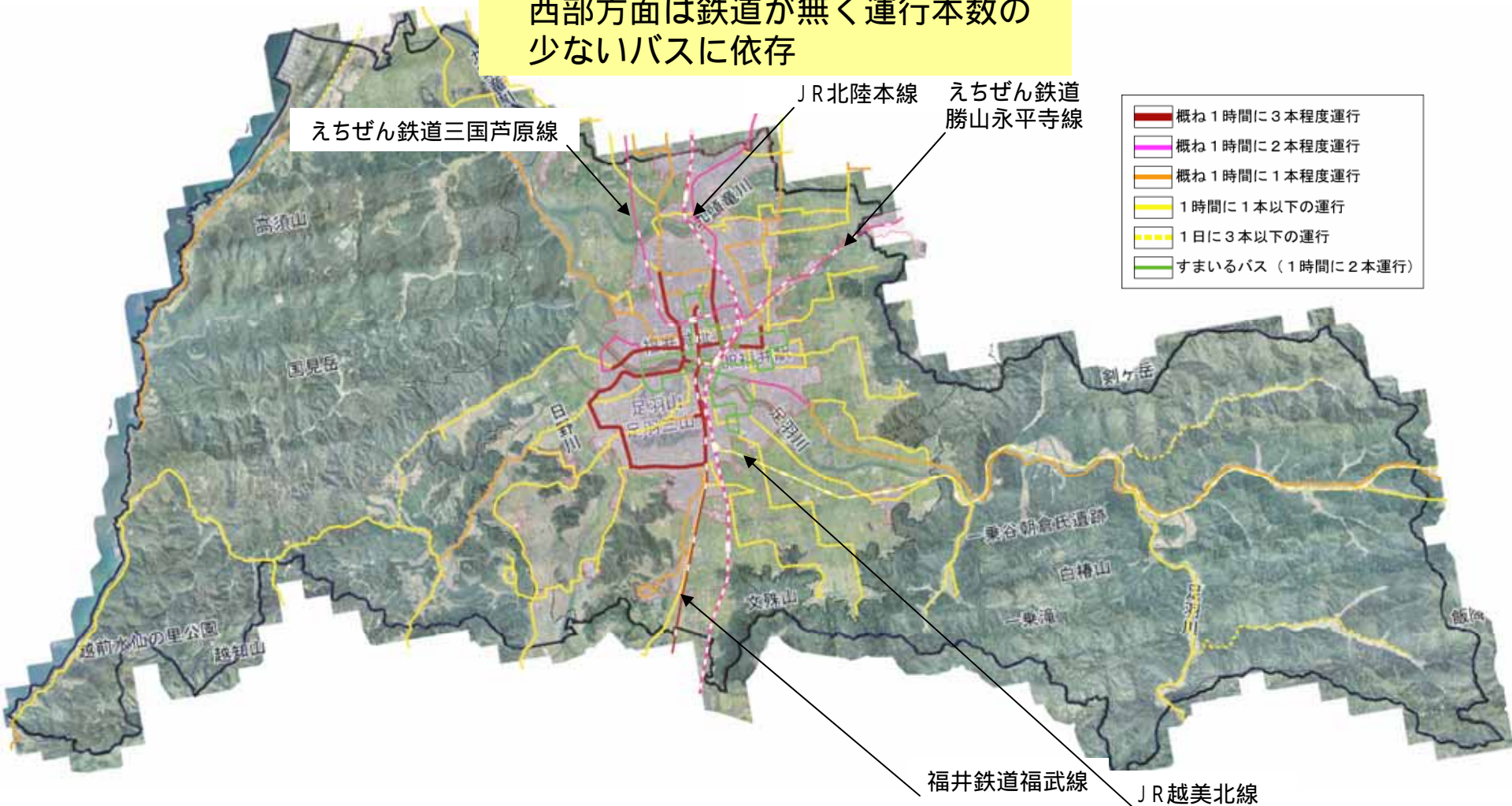
1. 福井市における都市交通の現状

公共交通

弱い 東西公共交通軸

バス路線は、福井駅を中心として各地域を放射状に連絡
大野方面と連絡するJR越美北線は運行本数が少ない
西部方面は鉄道が無く運行本数の少ないバスに依存

東西軸のサービス水準が低い



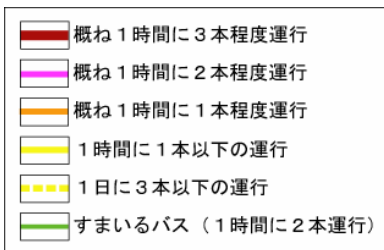
1. 福井市における都市交通の現状

公共交通

集客施設の分散化

市街地における集客施設
(大規模商業施設、公共公益施設等)の立地動向は、
道路整備が進んだ市街地の
外周部に分散化

公共交通サービスと公共施設
の立地動向に乖離が生じて
いる



(路線バス、すまいるバス以外に運行されているバス)

越前新保駅と大和田地区の集客施設を結ぶ巡回バス「あおぞらくん」を試験運行中(土・日・祝日:9便、平日6便)

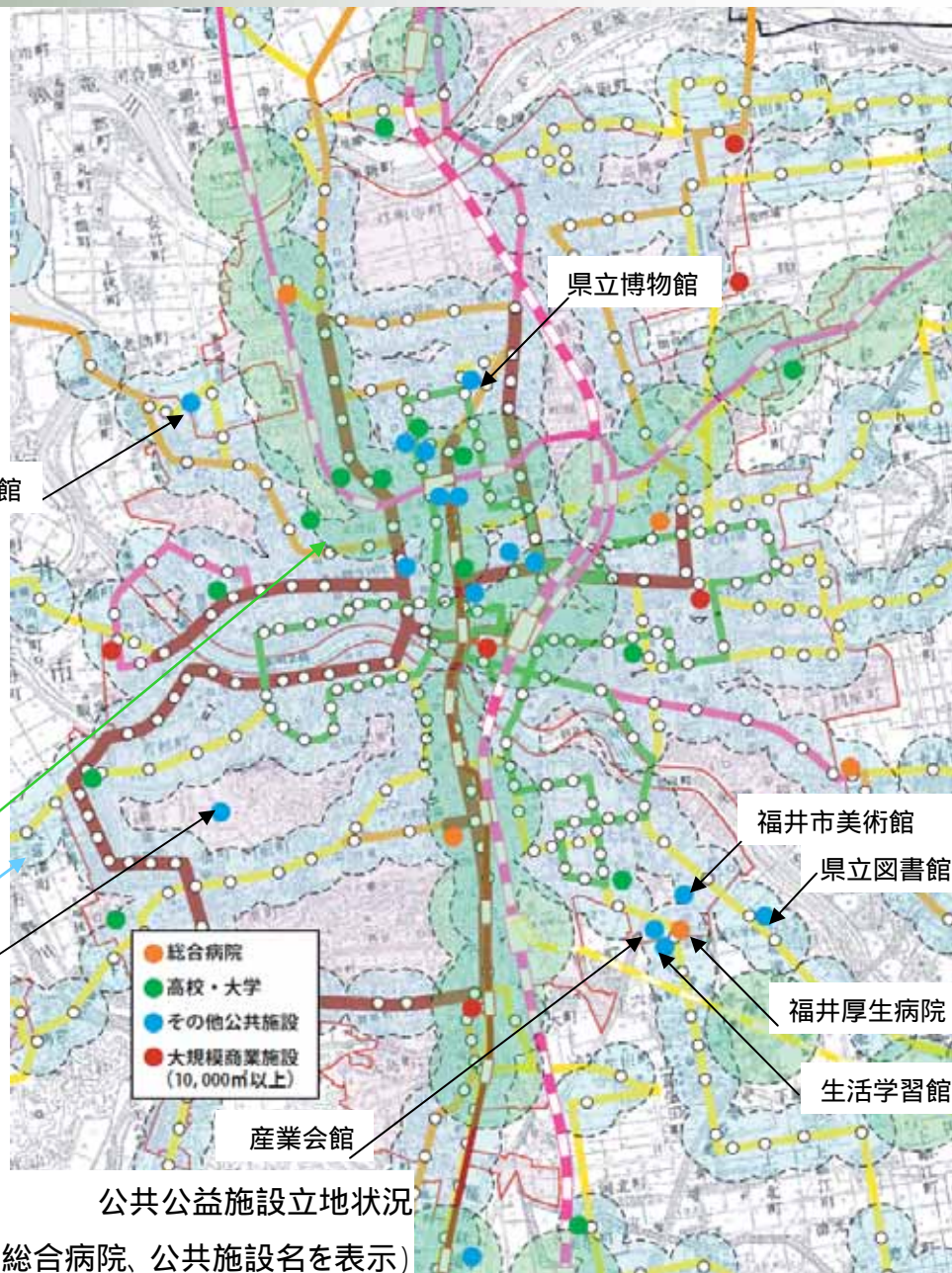
福井駅と六条地区の集客施設を結ぶフレンドリーバスを30分間隔で運行中

(鉄道駅500m圏域に含まれない総合病院、公共施設名を表示)

鉄道駅500m圏域

バス停300m圏域

みどり図書館



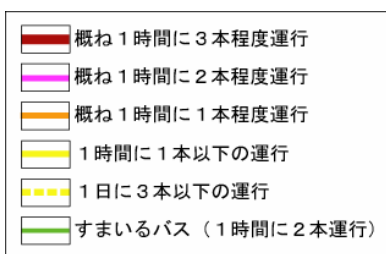
1. 福井市における都市交通の現状

公共交通

公共交通サービス圏

福井駅と各方面を連絡する郊外線は運行本数が少なく、サービスを全く受けられない集落も点在

郊外部ではシビルミニマムとしての公共交通サービスが確保されていない



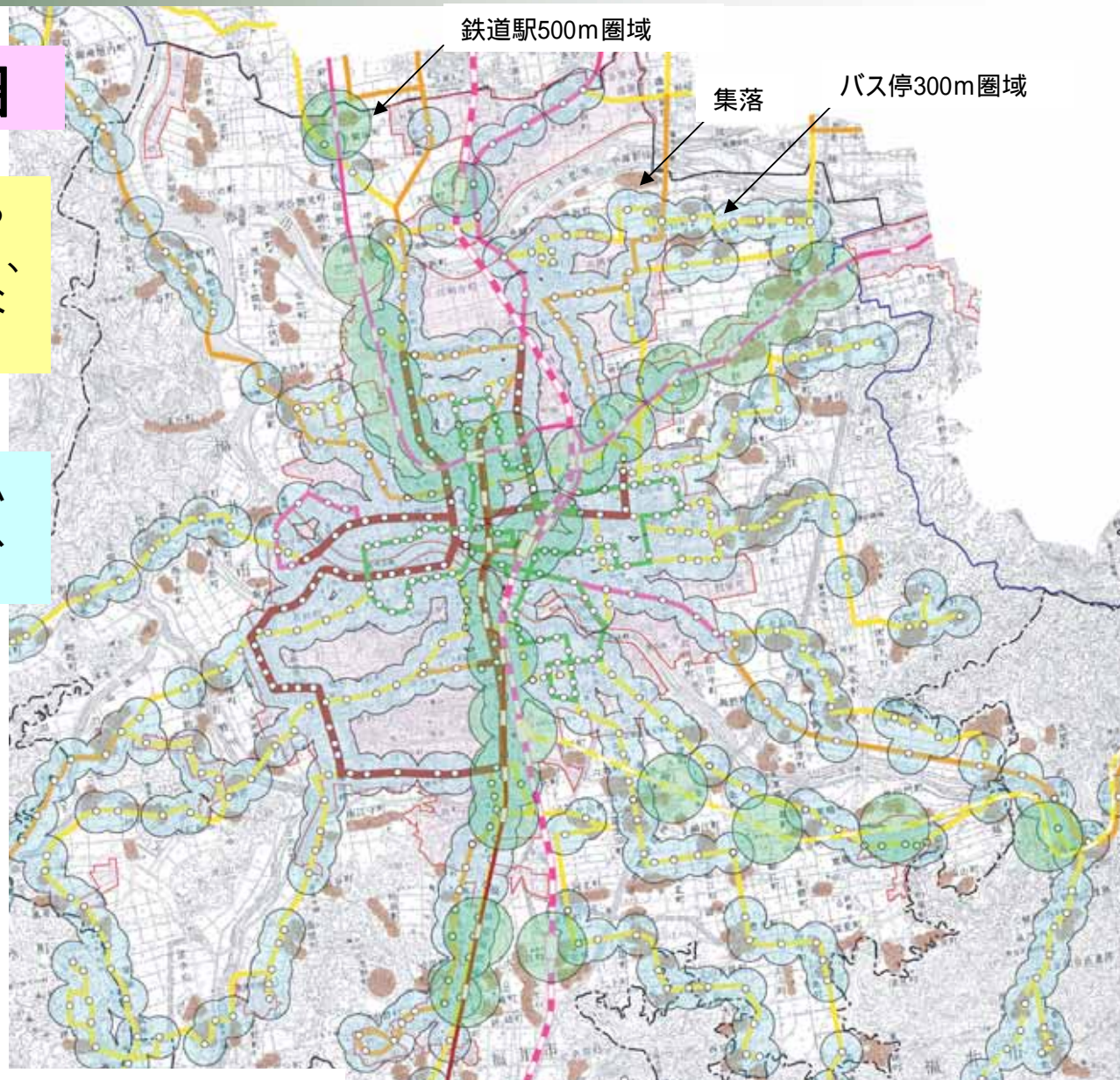
路線バスが運行されていない高屋地区、本郷地区では乗合タクシーによるサービスが行われています

シビルミニマムとは、日常生活上最低限確保すべきサービス水準

鉄道駅500m圏域

集落

バス停300m圏域



(福井鉄道福武線の路面電車区間は圏域を300mとして表示)

2. 福井市における都市交通の課題

現 状

課 題

徒 歩

- ・歩道の設置率は高く、交通バリアフリー基本構想に基づいて、歩行者空間のバリアフリー化を進めている
- ・中心市街地では、賑わいの道づくり事業を実施

- ・日常生活圏における歩道の整備、段差解消などのバリアフリー化
- ・中心市街地の歩行者空間の充実

自 転 車

- ・自転車利用環境整備計画を策定
- ・中心部では約2,700台分の駐輪スペースを確保し、自転車放置禁止区域を設定
- ・鉄道駅ではサイクルアンドライド駐輪場やレンタサイクルを提供

- ・自転車利用者の通行時、駐輪時のマナーの向上
- ・走行環境の改善(自転車の通行が可能な歩道の整備)
- ・駐輪環境の充実(駐輪場の整備)

自 動 車

- ・土地区画整理事業による道路の整備が進んでおり、整備水準は高い
- ・自動車保有台数、郊外の幹線道路の交通量は増加
- ・中心市街地では、駐車場の整備が進み、駐車場容量は充足している

- ・道路網の整備に伴い、自動車を持っていない人にとっては不便な交通体系
- ・自動車への過度な依存により、環境負荷が増大し、交通事故も増加
- ・駐車場の空き情報が分からないため、ストックが有効に活かされていない

2. 福井市における都市交通の課題

公共交通

現 状

- ・鉄道、バスの利用者は減少傾向にあるが、えちぜん鉄道の運行開始により輸送人員が伸びている
- ・バス路線は、福井駅を中心として各地域を放射状に結んでいる
- ・大野方面と連絡するJR越美北線は運行本数が少ない
- ・西部方面は鉄道が無く運行本数の少ないバスに依存
- ・市街地の集客施設の立地は、道路整備の進んだ市街地の外周部に分散化
- ・郊外路線は運行本数が少なく、サービスを全く受けられない集落も点在

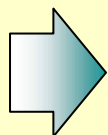
課 題

- ・公共交通の利用者減少が著しく、サービスの低下の悪循環が進行
- ・東西軸のサービス水準が低い
- ・公共交通サービスと公共施設の立地に乖離が生じている
- ・郊外部ではシビルミニマムとしてのサービスが確保されていない

公共交通の目標像

福井都市圏における方向性

誰にでも使いやすく、安全で安心して利用できる交通体系
環境負荷の少ない、持続可能な都市交通と交通体系
地域の魅力・活力の向上を促すまちづくりと交通体系



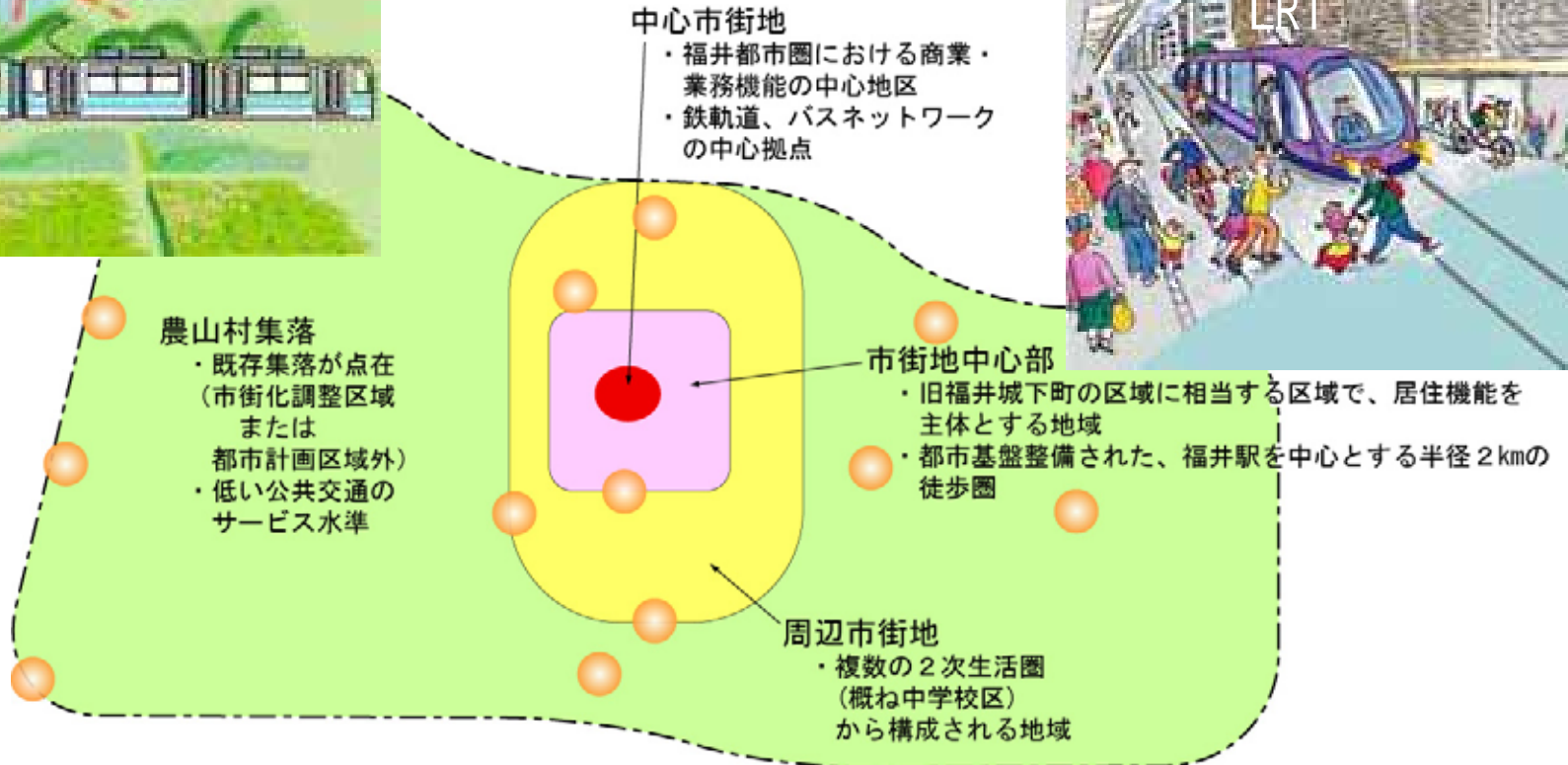
- ・過度な車利用から公共交通活用への転換を明示
- ・鉄軌道の相互乗り入れによるネットワーク強化、LRT化を明示

“高感度コンパクトシティ”の考え方

郊外での「やすらぎ」



中心部のにぎわい



地域の宝（歴史・伝統・文化）



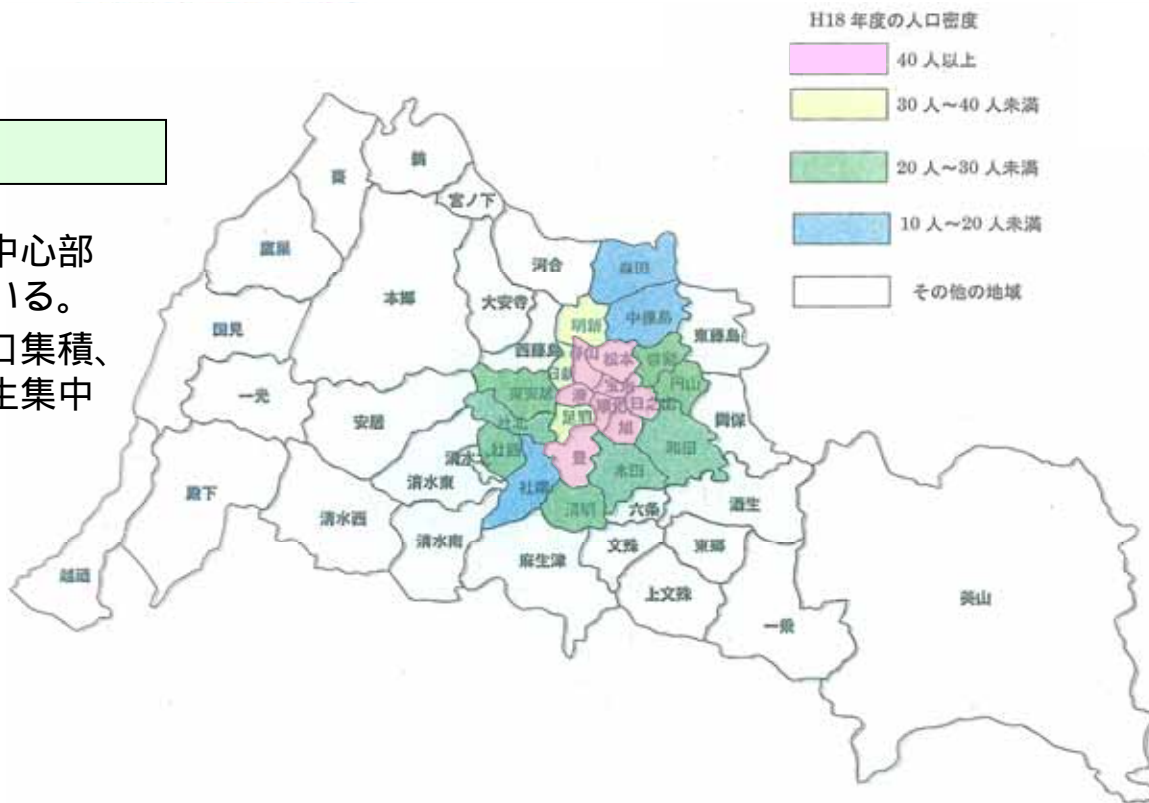
全国有数の都市基盤を
最大限に活用

地域毎の公共交通サービス水準の設定

公共交通のサービス水準：利用者の量や地域特性によって適正な配置が必要
福井市全域を、土地利用や都市機能、公共交通等の視点から4地域に区分
地域毎にこれまでの取り組みを踏まえ、公共交通の目標像を設定
地域特性としての人口密度、公共交通による移動時間を視点として、
サービス水準（運行頻度）を検討

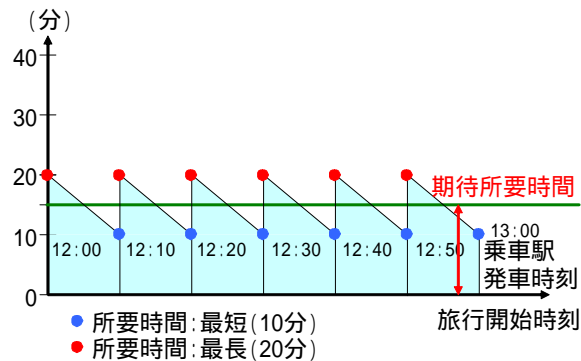
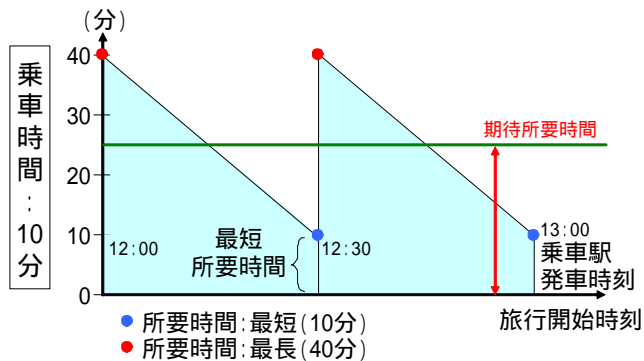
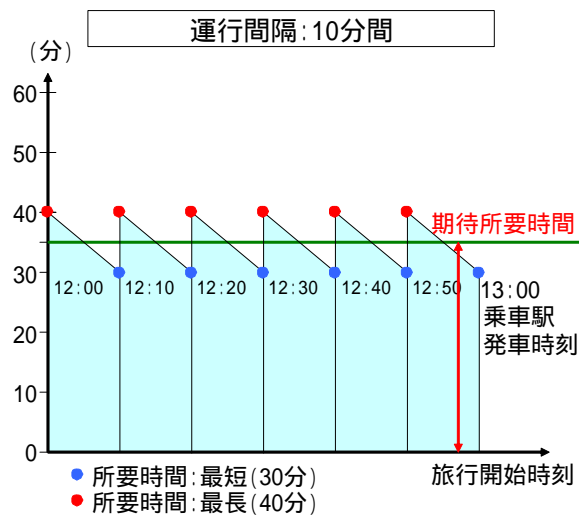
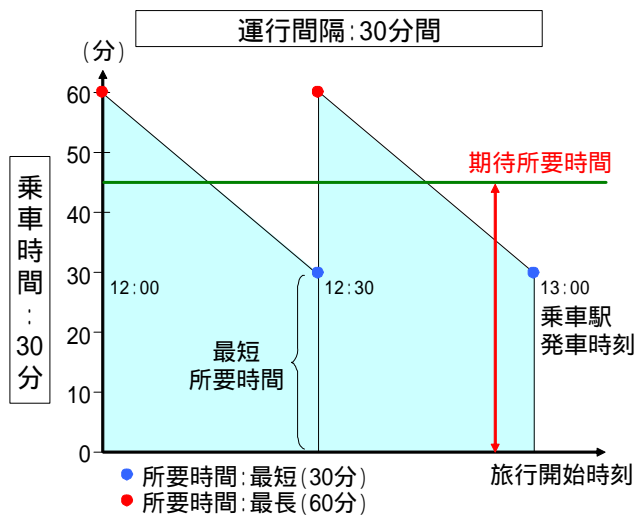
人口密度

人口密度は、中心市街地、市街地中心部が高く、同心円状に低く広がっている。
中心市街地、市街地中心部は、人口集積、商業・業務機能の集積が高く、発生集中交通量も多い。



期待所要時間

公共交通を利用する移動の所要時間は、乗車時間と待ち時間をあわせた時間となる。
サービス水準の指標として、「期待所要時間」を設定し、地域毎の運行頻度を検討する。

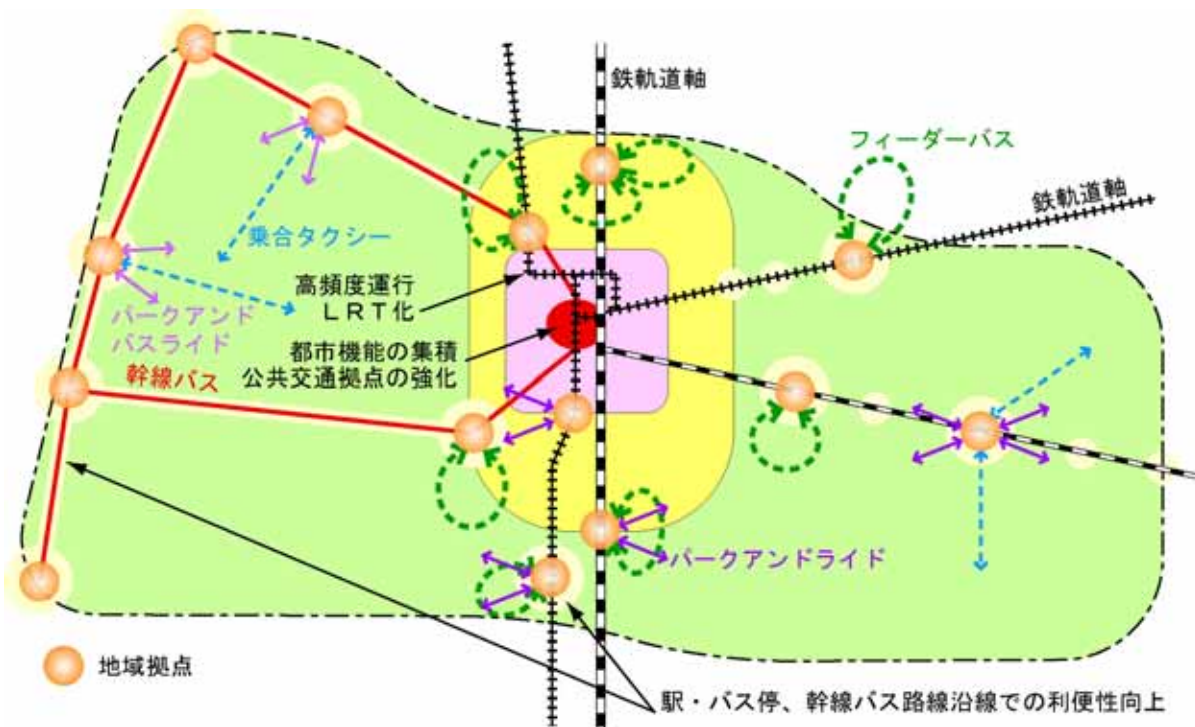


公共交通の目標像

公共交通の目標像

既存ストックを活用した 福井型 公共交通ネットワーク

- ・ 輸送密度や乗車時間等を踏まえ、地域毎の公共交通のサービス水準を設定
- ・ 既存ストックを十分に活用した交通施策パッケージを提案



公共交通の目標像

参考:公共交通サービス水準の
数値目標(案):検討中

【幹線軸の運行頻度】

- 中心市街地
: 5 ~ 6 本/時間 (概ね10分間隔)
- 市街地中心部
: 3 ~ 4 本/時間 (概ね20分間隔)
- 周辺市街地
: 2 ~ 3 本/時間 (概ね30分間隔)
- 農山村集落
: 1 本/時間 (概ね60分間隔)

中心市街地

福井都市圏の中心拠点として、都市機能の集積を活かしたにぎわいと交流の拠点
・公共交通のサービス水準が高く、利用率も高い(12.9%)。



・福井都市圏の各都市及び、福井市内全域と
相互に往来可能な公共交通結節拠点として整備

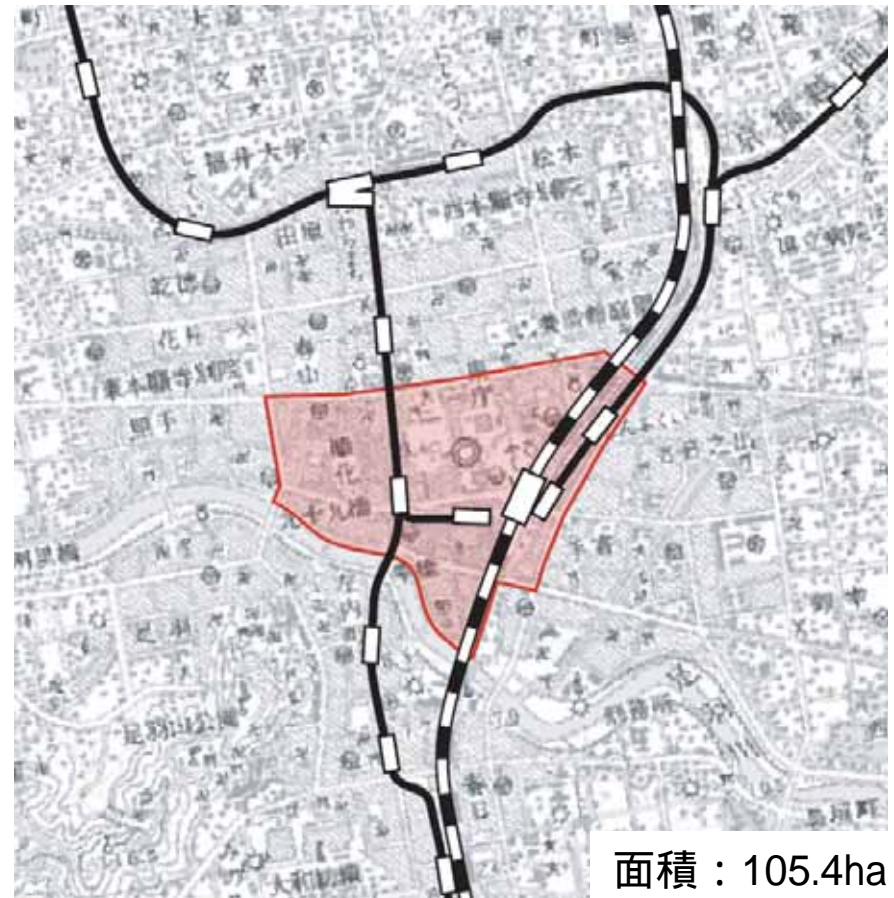
《重点プロジェクト》

赤字：先導的施策

福井駅西口駅前広場の整備

福武線路面軌道の
福井駅西口駅前広場への延伸

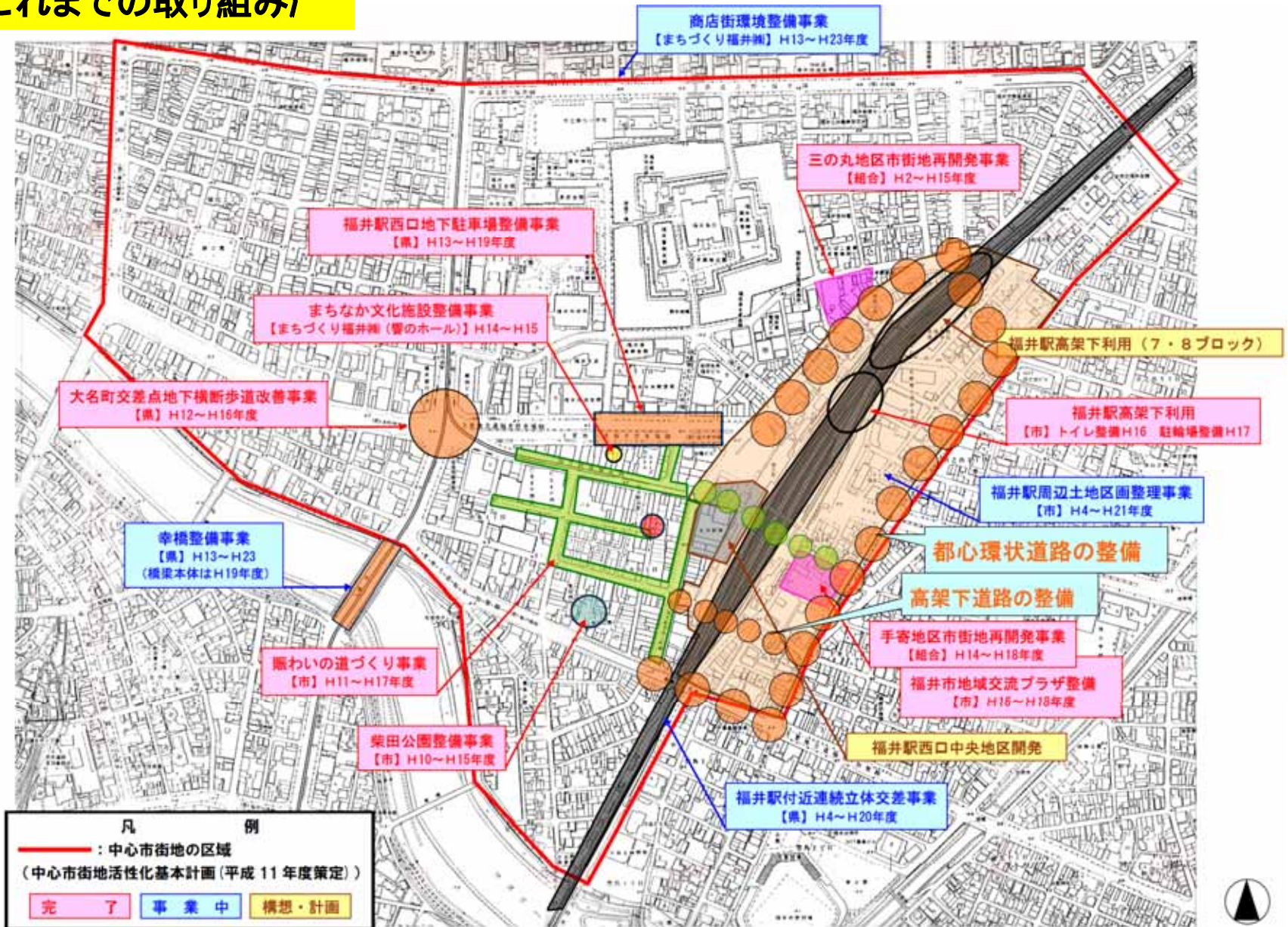
西口駅前広場をターミナルとする
バス路線の再編



面積：105.4ha

中心市街地

(これまでの取り組み)



市街地中心部

中心市街地を取り囲む地域であり、商業・業務機能との調和のある都心居住を推進
・鉄軌道、市内バスに加えてすまいるバスがあり、自動車利用は比較的低い(63.5%)。



・福井駅を中心とする半径2kmの徒歩圏であり、多様な交通手段選択が可能な地域として整備

〈これまでの取り組み〉

土地区画整理事業により都市基盤整備
(道路、公園、下水道等)

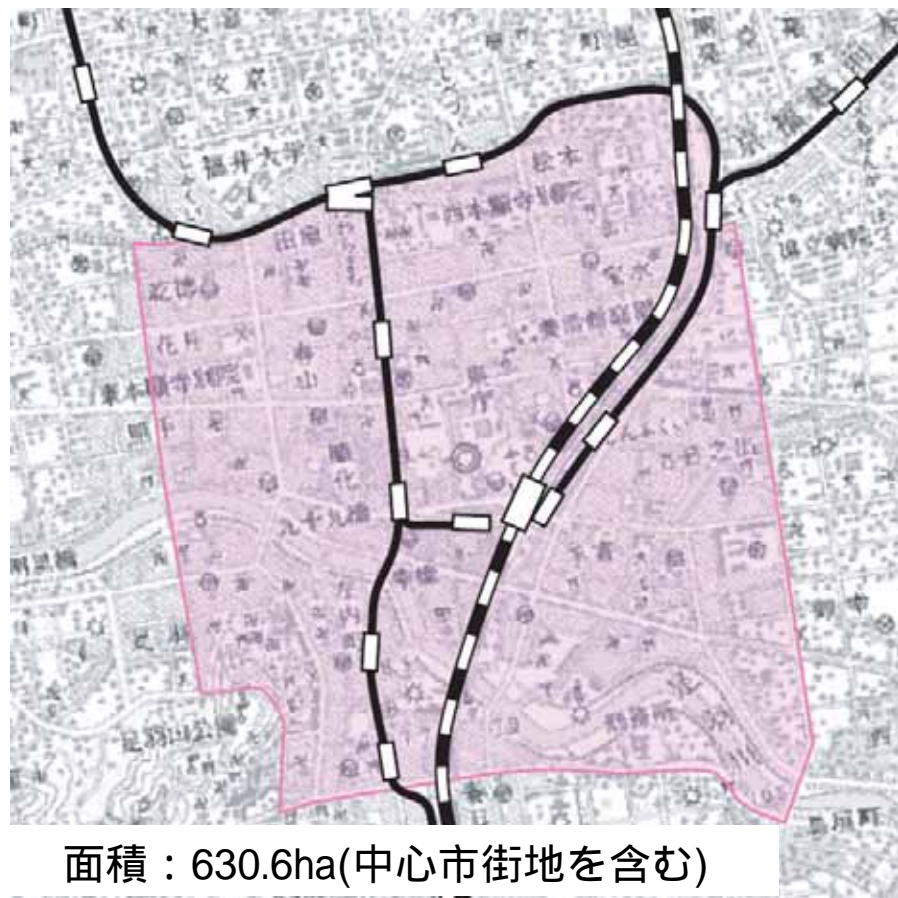
都心居住の推進
(ウララまちなか住まい事業)

《重点プロジェクト》 赤字：先導的施策

LRT化(シームレス化、高頻度運行、
LRV(低床車両)導入)

バスサービスの充実

歩行空間の環境整備
(自転車歩行者道、歩道等)



面積：630.6ha(中心市街地を含む)

周辺市街地

市街地の外縁部にあり、都市基盤のストックを活用した 居住機能を主体とする地域
・鉄軌道、市内バス網等により、公共交通と車の共存が可能な地域



・日常生活の足とな公共交通サービスを楽しむ地域であり、
市街地外への乗継サービスを提供する拠点を整備

これまでの取り組み

土地区画整理事業により都市基盤整備
(道路、公園、下水道等)

《重点プロジェクト》

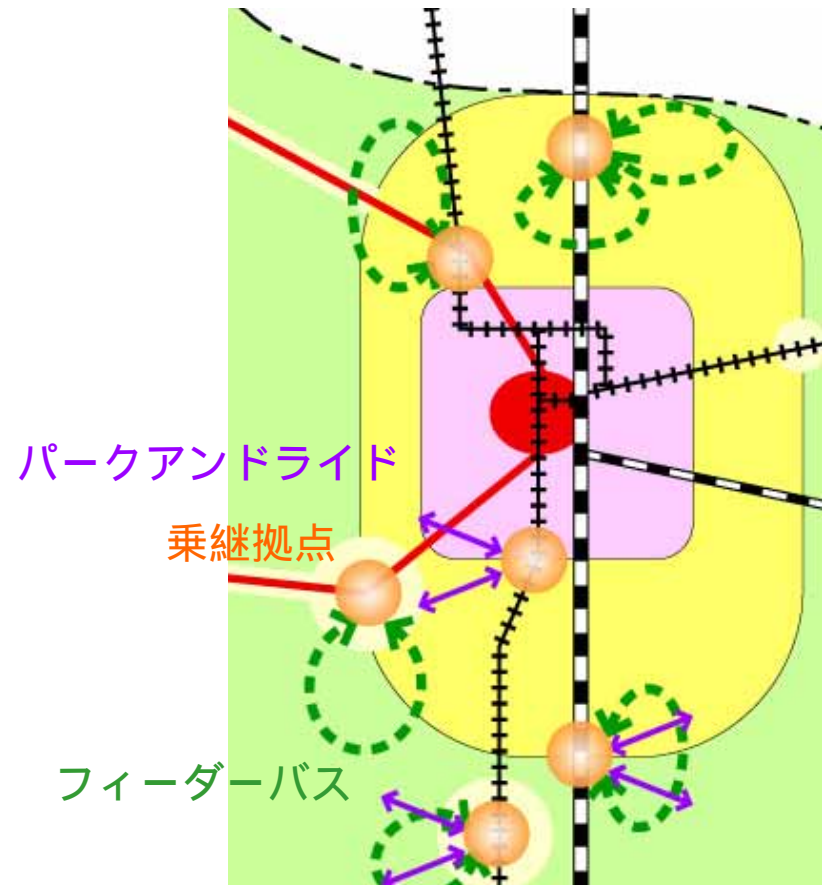
赤字：先導的施策

乗継拠点の整備

市内バスの再編

パークアンドライド駐車場の整備

フィーダーバスの運行



農山村集落

豊かな自然や農地に囲まれて、集落が点在する地域

・公共交通空白地域が多く、車がないと日常生活に支障がある地域



・既存ストックを活用し、シビルミニマムとしての公共交通サービスを楽しむことができる地域として整備

これまでの取り組み

既存の公共交通サービスの維持

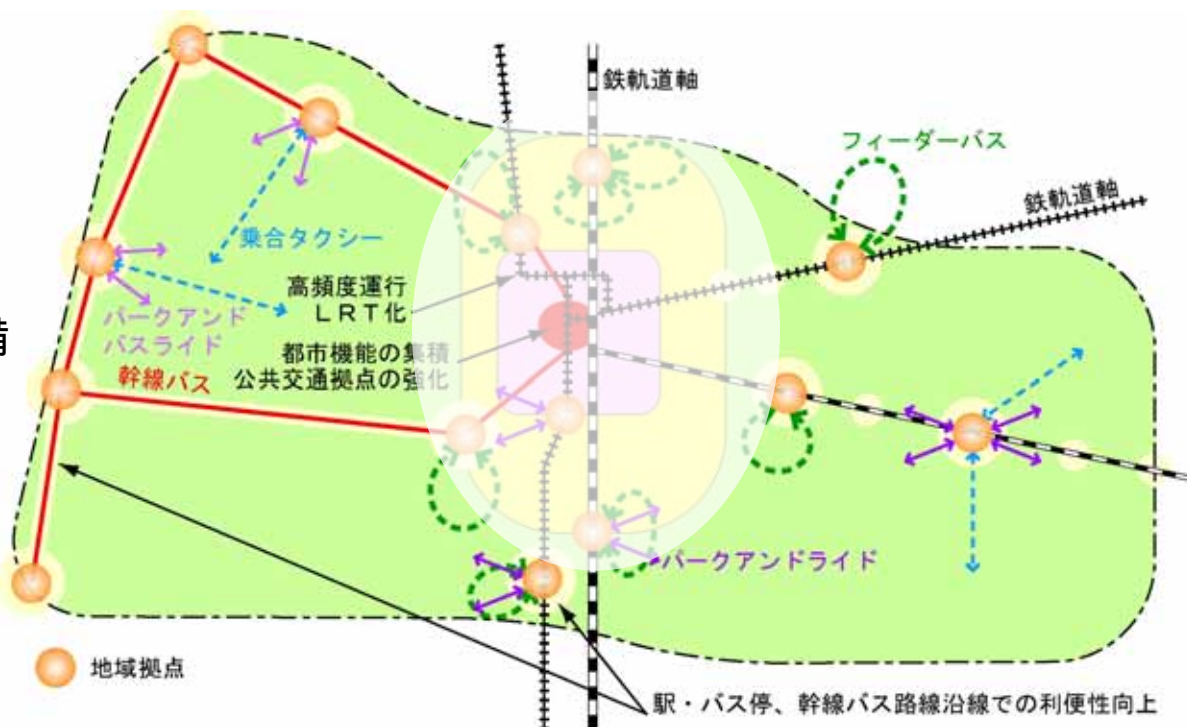
《今後の取り組み》

地域拠点駅、バス停の整備

パークアンドライド
駐車場の整備

フィーダーバスの運行

乗合タクシーの運行



各施策パッケージの検討状況

1. 南北幹線軸としてのLRTの整備

ワーキング部会を開催し、LRT化について以下のように具体化を進めていきます

《具体化すべき事項》

シームレス化

- ・福井駅西口駅前広場への延伸ルート
- ・直通運転化

高頻度化

- ・区間、便数

LRV(低床車両)の導入

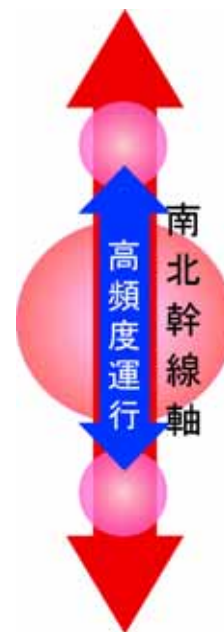
- ・車両数、仕様

路面走行区間の確保

- ・電車・バス兼用レーン

まちづくりとの連携

- ・TOD(公共交通指向型開発)



2. 東西幹線軸となる幹線バス路線の整備

現在、福井市地域生活交通活性化会議において、西部地域における幹線バスについて検討を進めています。

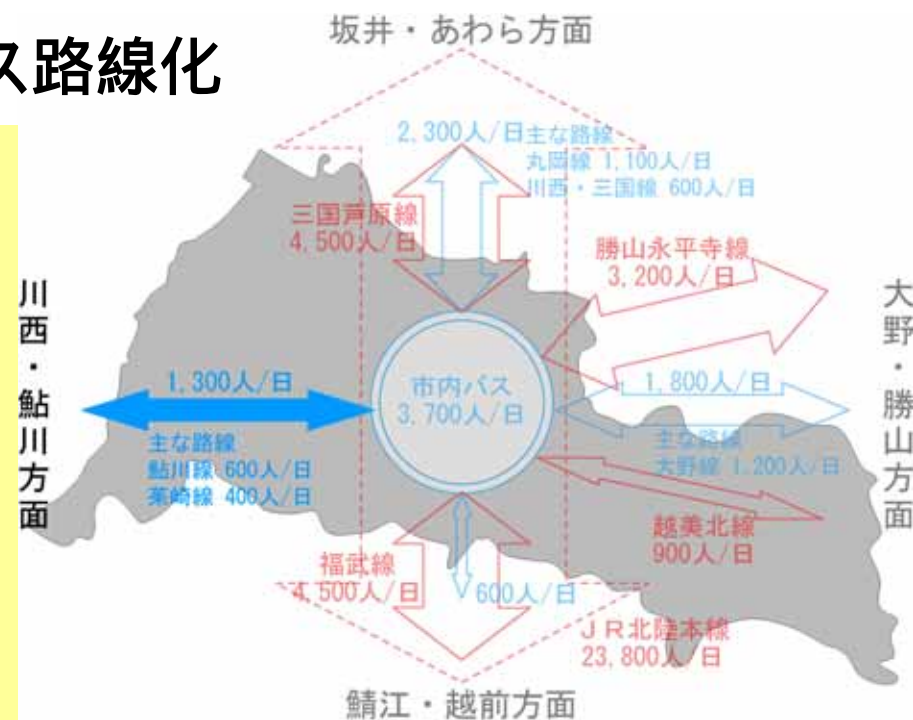
・福井市西部地域における幹線バス路線化

《目的》

福井市西部地域に幹線バス路線を設定し、東西幹線軸として整備する

《検討事項》

- ・幹線バス路線の設定
- ・幹線バス路線の機能の明確化
- ・アンケートや乗降調査等による情報収集・現状分析
- ・区間・頻度の検討
- ・導入効果の検証



3. 交通結節の強化

現在、中心市街地、周辺市街地のそれぞれにおける交通結節機能のイメージ、役割などについて検討を進めています。

《中心市街地》

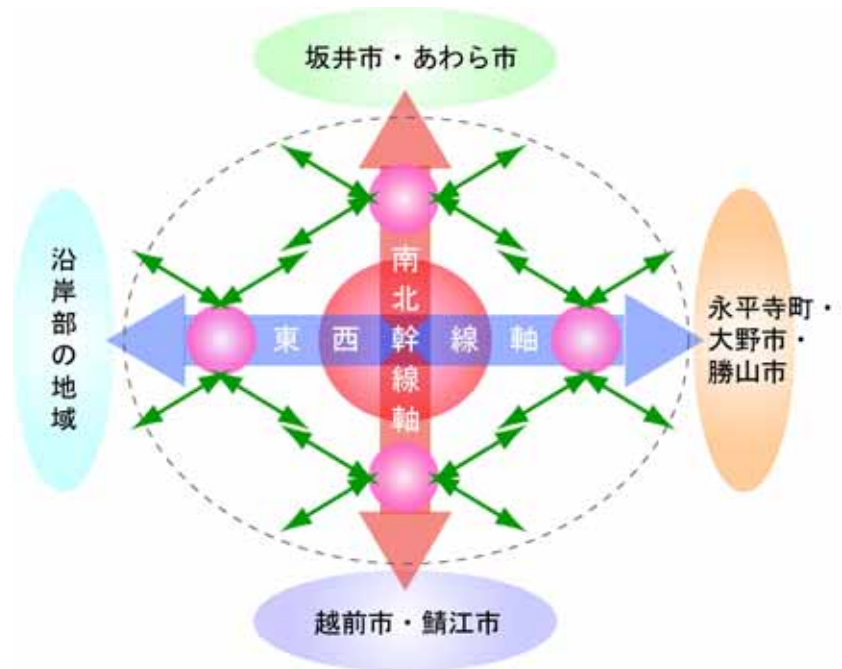
- ・ 南北軸、東西軸の結節機能の強化(福井駅前広場)

《周辺市街地》

- ・ 乗り継ぎ拠点の設定
- ・ 乗り継ぎ拠点の機能
- ・ バス路線の再編
- ・ 導入効果の検証

《フィーダーサービスのメニュー(案)》

- ・ 地域の拠点駅、バス停の整備
- ・ フィーダーバスの運行
- ・ パークアンドライド、パークアンドバスライド 駐車場の整備
- ・ サイクルアンドライド 駐輪場の整備
- ・ 福祉タクシーの運行 など



これまでにICカードに関する勉強会などを実施しています

《検討事項》

- ・ 総合交通情報サービスの検討
- ・ ICカードの導入に向けた検討
- ・ 乗り継ぎ・ゾーン運賃等の検討

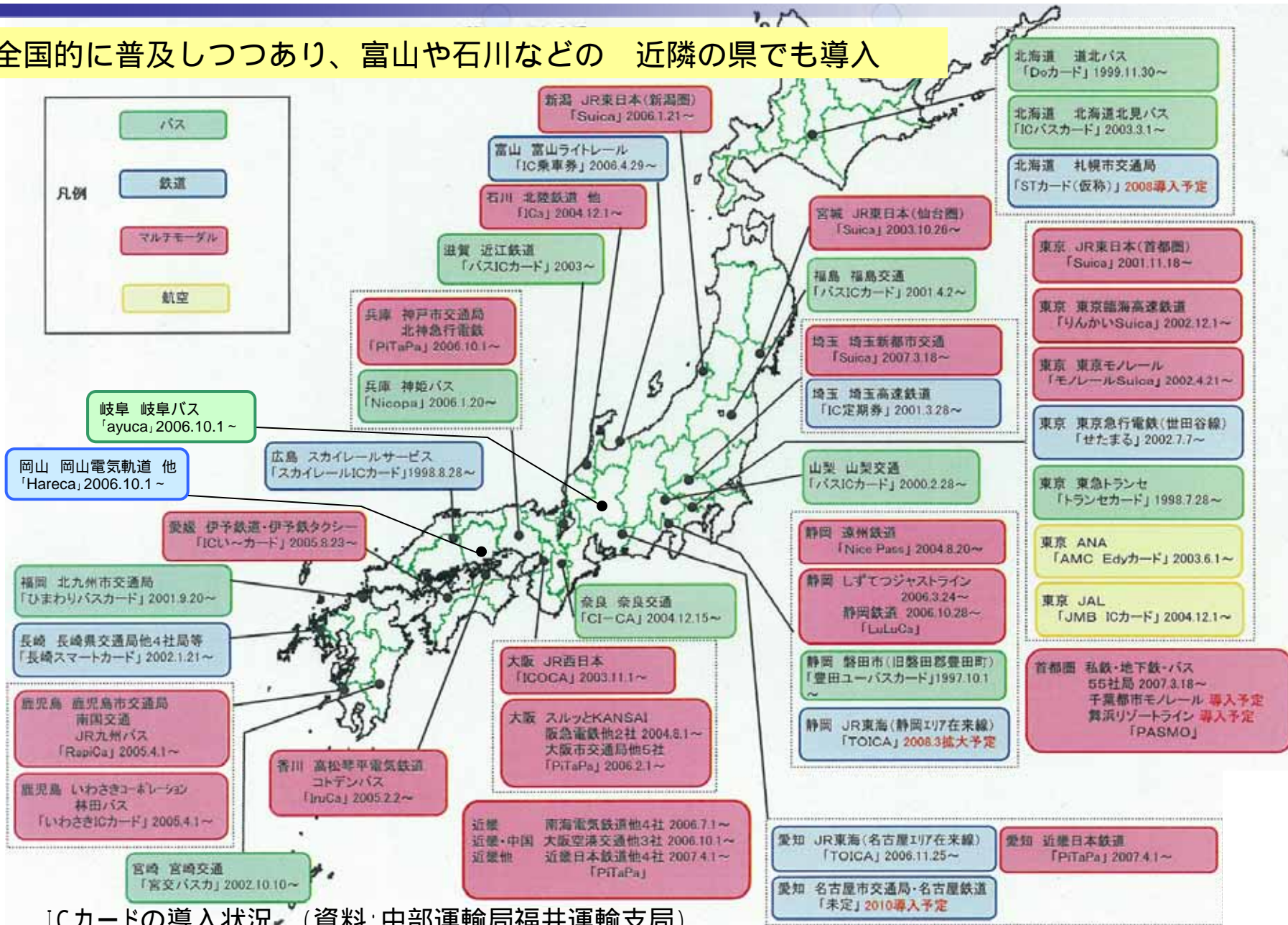


ICカードシステム(富山ライトレール)

4. 電車・バスのICT化

ICカードの導入状況

全国的に普及しつつあり、富山や石川などの 近隣の県でも導入



ICカードの導入状況 (資料: 中部運輸局福井運輸支局)

5. モビリティ・マネジメントの推進

現在、福井県と福井市がそれぞれモビリティ・マネジメントに関する取り組みを進めており、福井市では転入者に対する情報提供、アンケートを行っています。

・ 福井市への転入者に対する情報提供・アンケート

《目的》

転入者に対して公共交通の情報を提供し、自発的な公共交通の選択を促す

《実施方法》

市民課窓口を通じて、転入者に公共交通情報、アンケートを配布

《情報提供内容》

- ・ふくいのにのりマップの配布
- ・鉄道・バスの時刻表・運賃表の配布
- ・お得な割引切符や回数券、定期券の紹介
- ・かしこいクルマの使い方の紹介



《アンケートの主な設問》

- ・自動車運転免許の有無
- ・クルマ、公共交通に関する意識
- ・公共交通を利用した場合の自宅から福井駅までの移動方法 など